



年寄の昔話 (半世紀前を思いおこして) 施設長 吉田憲一

皆様、新年おめでとうございます。皆様にとって新年がよい一年でありますように。去年も色々な事がありましたが、嬉しいニュースの筆頭は何と言っても 2020 年東京オリンピック決定でしょう。招致活動の「おもてなし」のスピーチが有名となりました。私のような年寄にとっても、さてあと 7 年頑張ってもう一度オリンピックを見ようかと、元気が出るニュースでした。

前回の東京オリンピックは 1964 年（昭和 39 年）でした。当時私は高校一年。丁度 50 年前ですね。昭和 30~40 年代というのは、今振り返ってみても本当に激動の 10 年、20 年でした。私は昭和 24 年生まれ、昭和 30 年は小学校 1 年でしたが、当時テレビがある家は隣近所に一軒も無く、電気水道は有りましたが、ガスは無く、エネルギー源は薪・炭で、普通にかまどや火鉢が有りました。それが 10 年後の昭和 40 年には、テレビは一家に一台は当たり前（但し、まだ大部分は白黒でしたが）、冷蔵庫・洗濯機等の白物家電が一気に普及し、電話（もちろん固定電話です）も少しずつ普及し始めました。エネルギー源はガスに変わり、ガストーブが初めて家に来た日は、急に家が温かくなつた気がしました。思えば昭和 35 年、時の首相池田勇人は所得倍増を掲げ、日本は高度経済成長を突っ走ります。成長率は年率 10% 前後と、昨今の中国インドの様なもので、子供の私にも街が年々変化し、物が増え、豊かになっている事を実感する事が出来ました。

思いつくまま、当時の物価を挙げますと（大体昭和 30 年代半ばの頃ですが）、ラーメン 30~40 円。週刊誌 30~40 円。バス電車の初乗りは 10 円。汽車の客室には灰皿があり、車内はタバコの煙でもうもうでした。文庫本は大体 100~200 円位かな。ああ懐かしい。その頃読んだヨーロッパ旅行記に、かの地は少子高齢化で子供が少なく、街は活気に乏しく、公園には老人だらけというような記事があったのを今思い出し、まるで今の日本ですね。

私の同級生は 70 万人。昨年の出生数は 103 万人。もう少し子供を見たいですね。そして我々老人も体力に応じて、もう少し働かねばと思います。皆さんぼちぼち頑張りましょう。





とても穏やかな陽気になった年末年始、皆様はいかがお過ごしになられたのでしょうか？当施設では年末に、職員からの“おもてなし”となる恒例のクリスマスイベントを“今でしょ！”と実施しました。“倍返し”ともとれそうな職員同士の二人羽織の様子から、御利用者からは“じえじえじえ”との声が響き渡ったとか。この言葉たち、来年は使えないんだろうな…



12月21日土曜日に2階フロアでクリスマス会を行いました。通所、2階、3階の御利用者で会場は埋め尽くされました。最初はオトラ・ヴェスさんによるコンサート。普段見慣れない楽器が目の前に



並ぶと、御利用者からは「どんな音が出るのだ



ろう？」と興味をそそられた御様子。開始前から、今か今かと演奏を待ちわびておられました。選曲も御利用者が御存知の曲から南米のテンポの良い曲まであり、聞き入るあまりあっという間に終わった印象となりました。皆様も満足なさった御様子で、盛大な拍手で締めくくられました。次に、スタッフによる二人羽

織。今年は去年と比べ、前者の顔がケーキで化粧をしてるかの様にもなり、御利用者からも笑顔が沢山見られ良かったと思います。最後は今回のクリスマス会を企画したスタッフによる合唱でした。曲はお馴染みの「きよしこの夜」スタッフはこの時のために、仕事の合間に練習を沢山重ねてきました。御利用者からも盛大な拍手を頂き、来年も皆様の笑顔の為に、素晴らしいクリスマス会を企画したいと思いました。

2階介護 長崎



去る12月21日、恒例のクリスマス会が、盛大に行なわれました。ボランティアの方々による、南米音楽フォルクローレの演奏。曲はおなじみの、コンドルは飛んでいくから童謡“ふるさと”“リンゴ追



分”など多彩でした。またこれまたおなじみの、二人羽織。そして白と黒に衣装を揃えた職員による“きよしこの夜”の二部合唱（衣装が揃っているだけで上手そうに見えたのでは？）。御



利用者の方々、そして御家族の方々にも笑顔が浮かび、とても楽しそうに思えました。私達職員は、その笑顔の為に、これからも楽しい施設を目指して頑張っていきたいと、心に刻んだ一日でした。

3階介護 納所



他に職員の出し物として、日替わりで“卓球大会”“仮装間違探し”等を行いました。



卓球は、職員がトーナメント戦を行うにあたり

(男性職員は左手で行うというハンドルがあります)、御利用者に予め1位2位を予想してもらいます。見事予想が的中された方に、プレゼントを贈る事になっているのですが、御利用者の期待を裏切ってはならないので、職員も必死でした(動きは少ないので、私は筋肉痛になりました)。

次に御利用者に参加して頂く、恒例のスリービンゴ大会を行いました。ビンゴになった順からクリスマスプレゼントを選べるので「リーチ!」「ビンゴ!」等、嬉しそうな声が聞こえました。

最後に1年間の活動を振り返るスライドショーを見ながら、職員が飾り付けをしたクリスマスケーキを召し上がって頂きました。

利用者の方々に「楽しかったよ」と言っていただきながら、約1週間のクリスマス会が無事に終了し、ほっと一安心しました。



これからも御利用者の方々が「ケアポート・田谷に行きたい」と思って頂けるよう、職員一同努力いたします。よろしくお願ひいたします。

通所介護 木村



通所のクリスマス会は19日から25日の土日を除く5日間行いました。

毎年恒例の、年に一度、職員の真剣な顔が見られるハンドベル。「去年より上手くなったね」と皆様より声を掛けて頂きました。



巳から午へ

玄関横、事務所正面の壁に飾られた馬の壁画、もう皆様はご覧になられましたか？

ディケアでは日々の作業活動として、色々な作品の制作に取り組んでいます。そのひとつに毎年恒例の「干支の壁画」があります。今年は世界遺産となった富士山を背景に、駆け上がる馬を描いてみました。背景には色の付いたお花紙を1/4に切り、お団子を作る要領で両手で丸めたものを1つずつ糊で貼っていきました。馬は下地に広告を貼り付ける事で背景に対し立体的にし、体の部分にはその上から千代紙を貼り、たてがみと尻尾は毛糸で飾りました。「来年は午年なんだね」「今年ももう終わり、一年経つのが早いね」など、賑やかにおしゃべりしながら取り組まれていました。12月の中旬から始めたため、年内に仕上がるか心配でしたが、作業活動にあまり参加されない男性の方々の協力を得るなど、皆さんのが意欲的に取り組まれ無事に完成いたしました。「間に合って良かったわね」「綺麗にできたね」「馬が飛んでいるみたいで素敵に仕上がったわ」など、感想もさまざま。

施設からのお願い

季節性インフルエンザやノロウィルスの流行シーズンになりました。当施設におきましても、対策の一環として職員のマスク着用などを実践しております。またご面会の方々にもご協力を頂きたいこと等がありますので、来所時におかれましては、入口に掲示しております注意点に、眼を通して頂きたいと存じ上げます。



今年の元日(昼食)の献立です

祝い事の際によく食べられる「赤飯」や、おせちの定番である「伊達巻」「黒豆」「栗きんとん」を始めとし、皆様の2014年が明るいものであるように「赤魚の日の出焼き」、海老のように腰が曲がるまで元気で長生きできるように「海老しんじょうの煮物」を提供させて頂きました。

その他、利用者様が食べやすいようにやわらかく仕上げた「寿かまぼこ」と「梅かまぼこ」。縁起物であるくわいが入った「しそ団子」、カニの風味豊かな「カニの重ね蒸し」もご用意致しました。

1年の始まりの日に、利用者様への感謝の気持ちと今年1年間笑顔で過ごして頂きたいという想いを、これらの料理と共にお弁当箱に詰めさせて頂きましたが、如何でしたか？

またお屠蘇代わりのビールにも「すごい！」「嬉しい！！」とのお声が聞かれ、今年も皆様とともに、明るく笑顔で過ごせそうな予感がした元日でした。

管理栄養士 夏井



このように、年末の風物詩として干支の壁画を作って頂いてます。これは私達職員にとっても、無事に一年を過ごせた事に感謝しながら、年を締めくくる作業でもあります。この幸せな時間を共有させて頂くこと、本当にありがとうございました。

通所相談員 酒井

